元気萩っ子

平成２７年１０月　日（　）萩ヶ丘小学校 学校通信 №

安心・安全・きれいな学校で元気な子どもを育てる
なくそういじめ！ふやそう笑顔
仲間と共に思いやりのある行動を　みんなの笑顔を大切に
文責　校長　桑鶴　裕之

平成27年度　全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成２７年４月２１日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

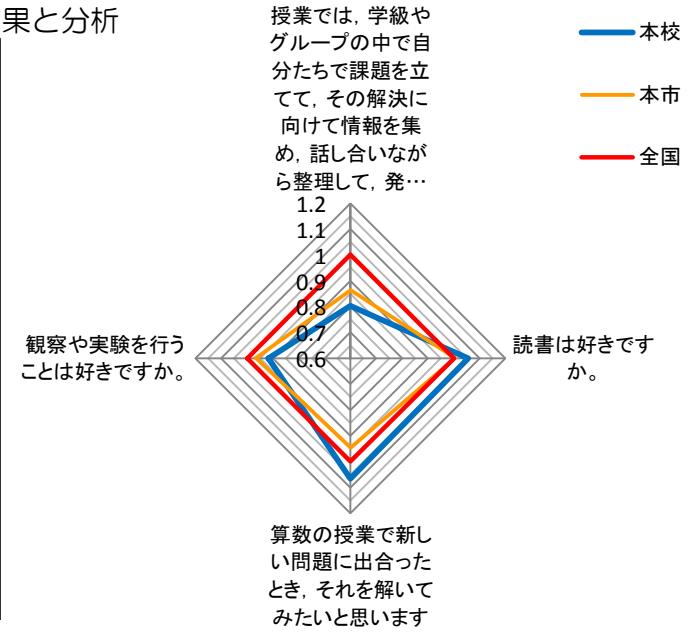
1. 教科に関する調査結果の概

① 学力調査結果と分析

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	学力の状況
国語A	・全体的には全国平均正答率を下回りましたが，漢字を読む力は全国平均正答率を上回るものがありました。また，昨年度より平均正答率は上昇していました。 ・漢字を正しく書くことに課題があり，正しく表現する力を付ける必要があります。 ・無解答率は昨年度より少なくなっていました。	全国平均正答率との比較 下回っている
国語B	・全体的には，全国平均正答率を下回りました，目的や意図に応じ，新聞の割り付けをする力は，全国平均正答率を上回っていました。また，昨年度より平均正答率がかなり上昇しました。 ・目的や意図に応じ，取材した内容を整理しながら書いたり，文と図を関連付けながら書いたりする力に課題があります。 ・無解答率が昨年度よりも少なくなりましたが，福岡県の無解答率よりもわずかに上回りました。	全国平均正答率との比較 下回っている
算数A	・全体的には，全国平均正答率を下回りましが，くり上がりのある2位数の加法の計算や見取図と展開図を関連付けて，立体図形の辺や面の位置関係を理解する力やグラフに表されている事柄を読み取る力は，全国正答率を上回っていました。 ・無解答率が昨年度より低くなりましたが，福岡県の平均無解答率を上回っていました。	全国平均正答率との比較 下回っている
算数B	・数学的な考え方を記述する問題では，全国平均正答率に比べ，平均正答率が高かったですが，この問題に対する無解答率はかなり高かったです。 ・全体的に，無解答率も昨年度より低くなったが，まだ，福岡県の無解答率を上回っている。 ・単位量あたりの問題や割合の問題を正しく解くことに課題があります。	全国平均正答率との比較 下回っている
理科	・全体的には，全国平均正答率を下回りました。実験結果の分析において，資料を基に考察し，その理由を説明したり，記述したりする問題に課題があります。 ・A問題では，全国の無解答率をすべて下回りました。B問題においては，昨年度より無解答率は下がったものの，福岡県の平均無解答率を上回っていました。	全国平均正答率との比較 下回っている

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

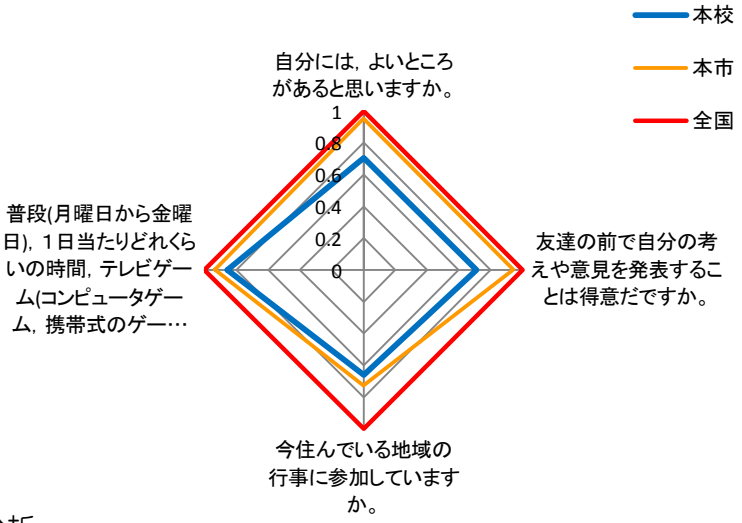
・「読書が好き」と答える児童の割合が，76%を超え，全校で取り組んでいる読書タイムや読み聞かせ，読書の記録，学級文庫の活用などの成果が出てきています。また，国語の学習に意欲的に取り組む傾向が見られ，文章を書くことの抵抗感が全国と比較してもかなり低くなっています。一方で目的に応じて資料を読んだり，自分の考えを話したり，書いたりすることは，全国と比較してもその差は大きいです。今後は，自分で課題を見付け，表現していく授業を行っていく必要があります。
・ 算数の学習に対する意欲が全国平均を上回っており，学習した内容を普段の生活に活用しようとしたり，もっと簡単に解く方法はないかと積極的に問題に取り組む姿勢が育っています。今後も学ぶことの楽しさを味わえる授業を行っていきます。
・ 理科の学習に対する関心・意欲が全国平均を下回っていました。その原因として，将来その学習が役立つと考えている児童が少なかったり，理科や科学技術に関係する職業に就きたいと考えている児童が少ない



2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

・普段，2時間以上家庭学習をしている児童の割合が全国平均よりも7ポイント上回っていましたが，1時間より少ない時間しか家庭学習をしていない児童の割合が全国平均より7ポイント上回っていました。中には全くしない児童もいました。スタディーウィークの取り組みを継続して行い，家庭学習の習慣を定着していく必要があります。
・ 読書は好きだが，昼休みや放課後，休みの日に図書室や地域の図書館に行く児童の割合が低かったです。今後は、図書館のひみつを探るなどの学習を年間のカリキュラムに継続して位置付け，活用の機会を増やすようにしま



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

・ 毎日同じ時刻に寝たり，起きたりする児童の割合は全国と同じくらいですが，あまり決まった時刻に起きたり，寝たりしない児童の割合は全国より10ポイント以上上回っていました。原因として，テレビやゲーム等への接触時間にあると考えられます。（テレビやゲームへの接触時間が3時間以上の割合が全国と比較しても10ポイント上回っていました。）生活習慣の見直しが必要です。
・ 将来の夢や目標をもつ児童の割合は，全国と比べても9ポイント以上上回っていました。しかし，自尊心が低い傾向にあります。小さな成功体験の積み重ねやよさを見付け合い，認め合う経験を増やしていく必要があります。また，地域の行事への参加も促し，地域全体で認め合う機会を増やしていく必要があります。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・ 自分の意見や考えを伝え合う中で、よりよい意見や考えにできるような交流の仕方を学ばせるために、授業
の中に「交流タイム」を設け、コミュニケーションの力を育てる研究に取り組みます。10月23日、11月11日、11月18日、11月25日に授業を伴った主題研究を設定し、よりよい交流タイムの在り方を全職員で研修します。
・ 少人数指導教員と連携を図り、年間計画に従って算数の授業を学級分割で行ったり、TT形式で行ったりして、より指導が行き届いた分かりやすい授業に取り組む。・月曜日は音読、火曜日は国語、水曜日は読書、木
曜日、金曜日は計算というように、朝自習で取り組む内容を学校全体で統一し、確実に実施することで、基礎
学力の定着を目指します。特に音読は、月はじめの月曜日に全校放送で一斉音読に取り組み、音読の楽しさを
味あわせるとともに、みんなで一つの目標の向かって取り組む楽しさも味あわせたいです。
・ 木曜日と金曜日の計算タイム（朝自習）が確実に実施できるように、少人数指導教員の協力の下、アシスト

② 家庭生活習慣等に関する取組

・ 中学校区全体が家庭学習に取り組むために、大里東小学校と戸ノ上中学校と連携して、11月20日（金）～11月26日（木）と2月10日（水）～2月16日（火）をスタディーウィークを設定します。家庭学習カードを全児童に配布し、家庭学習の記録を取っていきます。取り組みの様子や結果を学校便りで配信
し、保護者への家庭学習に対する関心を少しでも高めてもらいます。
・ 毎朝8時26分からを「萩小ストレッチタイム」とし、保健委員会作成のCDを全校放送します。静かな音楽とともにストレッチをすることで、体をほぐし、姿勢保持を意識させるようにします。
・ 1学期末に実施した生活アンケートの結果を学校便りで公表し、各家庭で生活習慣を見直すきっかけを設
けられるようにします。